

# 第1章 母子保健における目標と達成度

中目標	安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち～子育てをしたいと思えるまち～をめざします。
-----	---

平成18年度までの小目標における成果指標と達成度		策定前 平成14年度	中間評価 平成18年度
小目標1	子どもたちの心と身体を育む「食育」が実践できる。 ・1日3食の規則正しい食事を摂ることができる。 ・野菜を1日3食摂れる食生活ができる。 ・噛む習慣が身についた食事ができる。		
小目標1の指標	偏食の割合の減少(3歳6か月児健診)	42.3%	42.4%
	噛む習慣の割合の増加(3歳6か月児健診)	74.2%	86.3%
	朝食を食べない割合の減少(3歳6か月児健診)		0.2%
	1日3回食事を摂る割合の増加(小学校3年生) <sup>*1</sup>	77.8%	
	マタニティクッキング教室や乳幼児教室等への参加者数の増加		879人
	地域乳幼児健康相談や乳幼児教室参加者数の増加		7,619人
	保育所、幼稚園での健康相談や健康教室参加者数の増加		1,220人
	各小学校との連絡会の開催		市立幼稚園養護教諭との連絡会議(年1回)
	地域健康教室参加者数の増加 <sup>*2</sup>		「食育基本法(平成17年度)」の施行により小学校・教育委員会等との調整 7,619人
小目標2	地域の中でいきいきと子育てができる		
小目標2の指標	育児サークルや地域子育て講座での相談者数の増加	284人	5,455人
	子育てサロン開催地区の増加	3地区(3か所)	12地区(14か所)
	子育てボランティア講習会の開催	0回	2回/年
	子育てボランティア活動数の増加 <sup>*3</sup>		133回/1,124人
	子育て支援のための会議の充実		9会議
	小中学生の育児体験者数の増加 <sup>*4</sup>	小学3年生57.7% 中学2年生59.8%	中学生職業体験実習
	関係機関との連携事業の増加 <sup>*5</sup>		8事業

\*1\*4 平成12年度「子どもの生活実態調査」教育委員会実施資料 以後調査なし

\*2 の集計は、「地域乳幼児健康相談や乳幼児教室参加者数の増加」と重複

\*3 地域子育てサロン開催数を計上

\*5 関係機関との連携については、基盤整備小目標2で報告(関係団体との連携事業のみ計上)

平成22年度までの小目標における成果指標と目標値

		中間評価 平成18年度	最終評価 平成22年度
小目標1	子どもたちの心と身体を育む「食育」が実践できる。 ・1日3食の規則正しい食事を摂ることができる。 ・野菜を1日3食摂れる食生活ができる。 ・噛む習慣が身についた食事ができる。		
小目標1の指標	「食育」という言葉を知っている保護者の増加 <sup>*1</sup>	94.0%	100.0%
	「食育」の行動目標である5つの項目を実施している保護者の増加 <sup>*2</sup>	75.4%	100.0%
	朝食を食べない割合の減少(3歳6か月児健診)	0.2%	0.0%
	パパママ教室や乳幼児教室等への参加者数の増加 <sup>*3</sup>	879人	900人
	地域乳幼児健康相談や乳幼児教室参加者数の増加	7,619人	8,000人
	保育所、幼稚園での健康相談や健康教室参加者数の増加	1,220人	1,300人
	保育所・幼稚園・小学校・教育委員会等との連絡会の開催 <sup>*4</sup>	市立幼稚園養護教諭との連絡会議(年1回) 「食育基本法(平成17年度)」の施行により小学校・教育委員会等との調整	連絡会議の継続 幼・保・小学校・教育委員会等と連絡会開催(年1回)
就学前の時期における食育や歯科保健についての健康教育の実施 <sup>*5</sup>	0回	5回/年	
小目標2	地域の中でいきいきと子育てができる		
小目標2の指標	育児サークルや地域子育て講座での相談者数の増加	5,455人	6,000人
	子育てしやすいまちと思う保護者の増加 <sup>*6</sup>	90%(平成17年度)	100%
	子育てボランティア講習会の開催	2回/年	社会福祉協議会への協力
	子育て支援に関わるボランティア数の増加 <sup>*7</sup>	1,124人	1,200人
	子育て支援のための会議の充実	9会議	9会議
	保育所幼稚園等での子育て出前講座や、中学生への体験実習の支援 <sup>*8</sup>	中学生職業体験実習(1校)	公立幼稚園他で実施
	関係団体との連携事業の増加 <sup>*9</sup>	8事業	継続充実
	虐待の早期発見・予防及び保護者への支援を関係機関と連携しておこなう <sup>*10</sup>	要保護児童対策協議会実務者会議 児童虐待部会(年12回)	
発達障害の早期発見および発達支援、乳幼児期から就学にむけて関係機関との連携、児や保護者支援の充実 <sup>*10</sup>	早期療育事業実務者会議(年12回)	早期療育事業実務者会議及び教育委員会との連絡会議の開催	

\*1\*2 「食育基本法」の制定により、指標を変更

\*3 マタニティクッキング教室を含む、パパママ教室全体としての指標に変更

\*4 保育所・幼稚園の連携も必要であることから指標に追加

\*5 地域乳幼児健康相談や乳幼児教室参加者数と集計が重複しているため、歯科保健に関する指標に変更

\*6\*7 地域子育てサロンが全地区で開催(目標達成)となったため、指標の変更

\*8 教育委員会で実施した調査の指標を用いたが、同様の調査が困難なため指標を変更

\*9 基盤整備小目標2と重複しているため関係機関を関係団体に変更

\*9\*10 児童虐待防止法・児童福祉法の一部改正をうけ、虐待予防及び発達支援の指標を追加

## 1. 小目標 1

子どもたちの心と身体を育む「食育」が実践できる。

- ・ 1日3食の規則正しい食事を摂ることができる。
- ・ 野菜を1日3食摂れる食生活ができる。
- ・ 噛む習慣が身についた食事ができる。

### (1) 平成18年度までの目標と達成度

目 標	平成14年度	平成18年度
偏食の割合の減少(3歳6か月児健診)	42.3%	42.4%
噛む習慣の割合の増加(3歳6か月児健診)	74.2%	86.3%
朝食を食べない割合の減少(3歳6か月児健診)		0.2%
1日3回食事を摂る割合の増加(小学校3年生)*1	77.8%	
マタニティクッキング教室や乳幼児教室等への参加者数の増加		879人
地域乳幼児健康相談や乳幼児教室参加者数の増加		7,619人
保育所、幼稚園での健康相談や健康教室参加者数の増加		1,220人
各小学校との連絡会の開催		・市立幼稚園養護教諭との連絡会議(年1回) ・「食育基本法」の施行により学校・教育委員会等関係機関との調整
地域健康教室参加者数の増加		7,619人

\*1 平成12年度「子どもの生活実態調査」教育委員会実施 以後調査なし

### (2) 具体的な取り組み

マタニティクッキング教室(パパママ教室)での取り組み

マタニティクッキング教室は、パパママ教室の一環として実施しており、妊娠中の食事が胎児や母親に与える影響等を講義形式で行っていた。平成12年度か

らは、食育の重要性に注目し、妊娠中から食に対する関心を深めてもらい、その後の育児及び自分自身や家族の健康づくりにつなげられるように、講義に加えて調理実習を開始した。

平成17年度からはパパママ教室を拡大し、父親の食育への関心や意識の向上を促すため、参加型で栄養コーナー等を設置した「プレパパプレママのつどい」を開催(年3回)し、平成18年度からは「はじめてパパママになる日のために」と名称を変更して実施(隔月開催)している。なお、父親の参加を得るために日曜開催等内容に工夫を図り開催している。

他にも、食育について、平成17年度から「妊婦栄養講座」としてマタニティクッキング教室から独立させて内容の充実を図り開催している。

<妊婦栄養講座開催状況>

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度
参加者数/回数	66 人/12 回	87 人/12 回

妊婦栄養講座の内容

- 1 回目 総論編「赤ちゃんとお母さんの栄養について」講義
- 2 回目 実践編「妊娠中の食生活」調理実習

「いかに味付けが濃かったか反省しました。」「離乳食にも活かしていきます。」(参加後アンケートより)

<「はじめてパパママになる日のために」開催状況>

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度
参加者数/回数	159 人/3 回(うちパパ 77 人)	255 人/5 回(うちパパ 110 人)



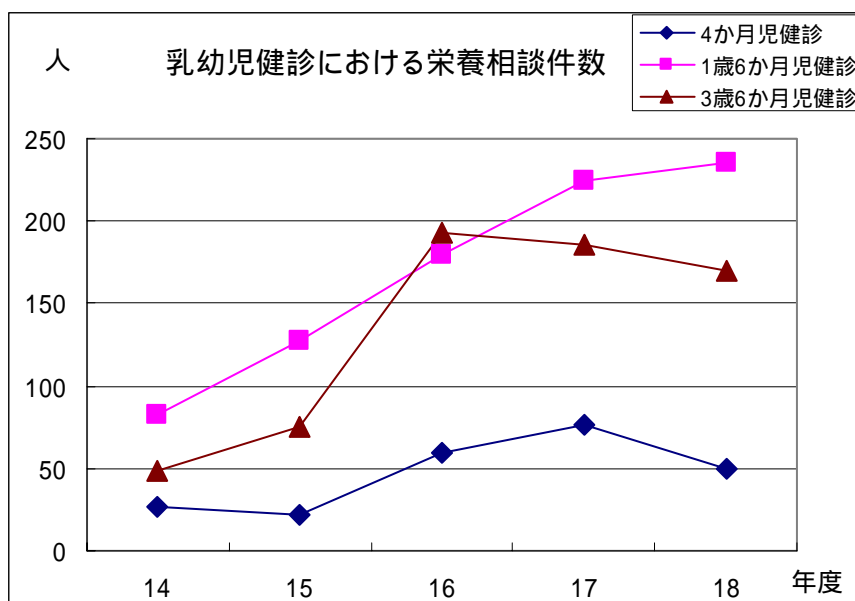
「外食のカロリーが高いのでびっくり。」「野菜を一日こんなに食べないといけないんですね。」(参加者父の声より)

乳幼児健診での取り組み

4か月、1歳6か月、3歳6か月の乳幼児健診時に、栄養士がフードモデルを用いて、子どもの食事について個別相談ができるコーナーを設けている。保護者から栄養士に対して気軽に質問できる工夫を行った結果、個別相談が増加傾向にある。



1歳6か月児健診  
(平成17年度受診者)  
栄養相談ベスト3  
1位 偏食(野菜嫌い)  
2位 遊び食べ  
3位 少食



### 乳幼児育児教室での取り組み

10か月児教室、2歳児教室のなかで、栄養士が「幼児食の基本について」の講話と個別相談を行っており、どちらの教室でも、子どもの食事に対する保護者の関心は高く、栄養士への質問や個別相談が増えている。平成18年度から、「10か月児教室」「2歳児教室」は、食育を中心とした「乳児後期食教室」、「幼児食教室」に名称変更して開催している。

< 各教室での栄養相談参加者数/回数 >

年度	10か月児教室 (H18～後期食教室)	2歳児教室 (H18～幼児食教室)
15	30人/12回	52人/12回
16	69人/12回	41人/12回
17	78人/12回	58人/12回
18	102人/11回	69人/11回

### 親子クッキング教室の取り組み

平成16年度から幼児期の食育の実践をより広げていく目的で、未就学児とその保護者を対象に親子での調理実習を中心とした教室を開催し、平成17年度からは、年3回に開催回数を増やすとともに、市立幼稚園と連携し共催事業としても実施している。

その他、ヘルスマイトが主催する親子クッキング教室も毎年実施されている。

#### <クッキング教室開催状況>

年度	親子クッキング教室	市立幼稚園と共催事業	ヘルスマイトクッキング教室
16	1回		2回
17	3回	5回	2回
18	3回	3回	2回

親子クッキング教室(平成18年7月実施分)

「朝ごはんは一日の出発」

*menu*

牛乳がゆ

具たくさんのおみそ汁



幼稚園クッキング(平成19年3月実施分)

「簡単おやつレシピ」

*menu*

豆腐団子

### 地域での取り組み

市立幼稚園等の園庭開放事業、地域での子育てサロン(以下、「子育てサロン」という。)及び自主的な活動である育児サークル(以下、「育児サークル」という。)からの依頼で、栄養士が出向き、生活リズムや食生活の大切さについての話や個別相談等を行った。また、食育について、早くから取り組んできたことに加え、食育という言葉が定着してきたことで、地域の子育てサロン等から栄養士の派遣依頼が増加している。

#### <栄養相談出務状況>

年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
市立幼稚園園庭開放事業	1回	2回	1回
子育てサロン	10回	12回	14回
育児サークル	4回	1回	1回

### 歯科衛生士の取り組み

平成15年度から歯の衛生週間に合わせて歯科衛生士が、市立保育所7か所で健康教育を行っている。この中で、就学前の口腔内の状態や歯みがき時の留意点について保育所と協力し、児や保護者への働きかけを行っている。また、平成17年度からは、市内私立幼稚園等においても同様に健康教育を実施している。

#### < 歯科衛生士による健康教育実施状況 >

年 度	4才児	5才児	私立保育所	私立幼稚園
15	20人/1か所	150人/7か所		
16	43人/2か所	155人/7か所		
17	69人/3か所	164人/7か所	26人/1か所	94人/2か所
18	110人/5か所	157人/7か所	120人/5か所	82人/3か所



次に、市立幼稚園の園庭開放事業、子育てサロン及び育児サークルから依頼があれば、歯科衛生士が出向き、保護者に対して健康教育、個別相談等を行っている。その結果、乳幼児期の口腔内の相談機会が増え、地域の子育てサロン等から歯科衛生士へ派遣依頼が増加した。

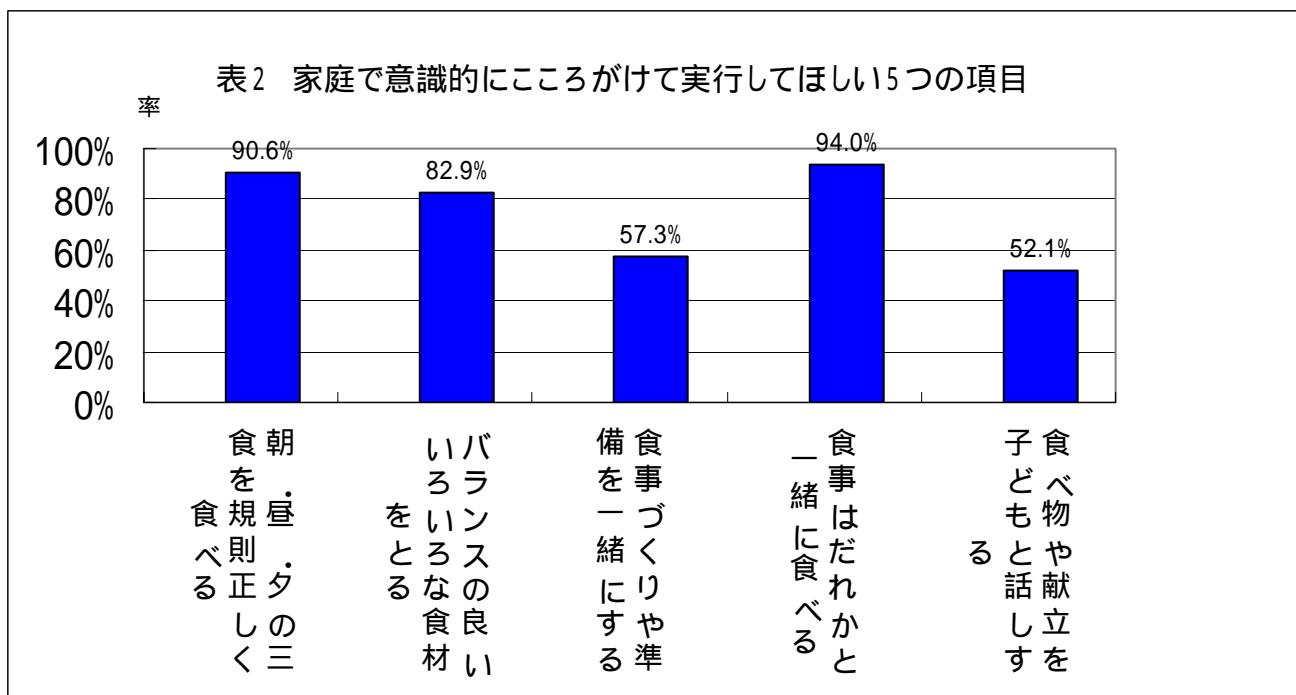
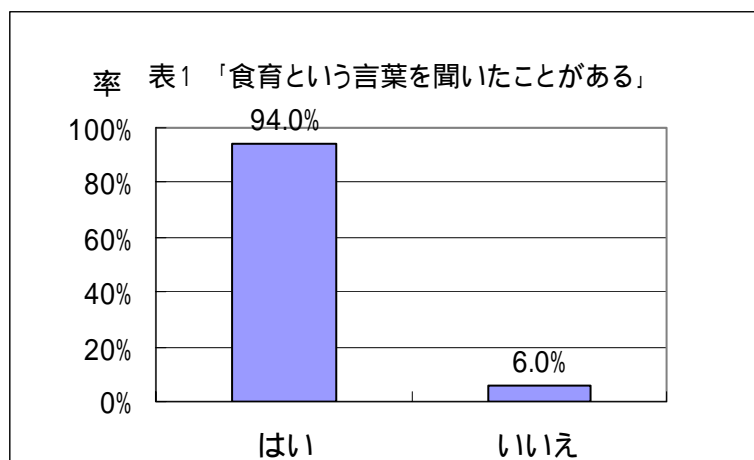
その他、平成17年度からは、障害児通園施設「あいあい園」において、通所されている児や保護者に対して歯科相談を実施してきた。

#### < 歯科衛生士出務回数 >

年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
市立幼稚園地域開放事業	5回	5回	5回
子育てサロン	10回	16回	14回
育児サークル等	10回	10回	7回
あいあい園		13回	34回

< 食育に関するアンケート実施結果 >

3歳6か月児健診(平成18年11月～12月実施)受診の保護者110人対象



(3) 今後の方向性

乳幼児期から就学前における食育について、保護者に対して100%周知を目標に必要な情報提供の場を広げ、個々の健康相談等が容易に受けられる環境づくりを行う。

食育の行動目標である、「家庭で意識的にこころがけて実行してほしい5つの項目」(表2)がすべて100%になるように健診や地域活動のなかで取り組む。

幼稚園・保育所・教育委員会等との食育についての連携を図りながら、就学前健診時に就学に向けての食育や歯科保健についての健康教育を行う。



## 2 . 小目標 2

地域の中でいきいきと子育てができる

### ( 1 ) 平成 1 8 年度までの目標と達成度

評 価 指 標	平成 14 年度	平成 18 年度
育児サークルや地域子育て講座での相談者数の増加	284 人	5,455 人
子育てサロン開催地区の増加	3地区(3か所)	12地区(14か所)
子育てボランティア講習会の開催	0 回	2 回/年
子育てボランティア活動数の増加(子育てサロン開催回数)		133 回 1,124 人
子育て支援のための会議の充実		9 会議
小中学生の育児体験者数の増加*1	小学 3 年 57.7% 中学 2 年 59.8%	中学生職業体験 実習
関係機関との連携事業の増加		8 事業

\*1 平成12年度「子どもの生活実態調査」教育委員会実施 以後調査なし

### ( 2 ) 具体的な取り組み

地域での取り組み

市立幼稚園の園庭開放事業、子育てサロン及び育児サークルに保健師、栄養士、歯科衛生士が外向き、健康教室・乳幼児健康相談等を実施した。

この健康教室・乳幼児健康相談の参加人数は、年々増加してきており、育児不安及び母子の孤立化の軽減・解消等を身近な地域で子育て支援を行ってきた。

< 健康教室参加者数/回数 >

年 度	15年度	16年度	17年度	18年度
市立幼稚園園庭開放事業	171 人/4 回	98 人/5 回	137 人/6 回	490 人/7 回
子育てサロン	2,192 人/51 回	2,889 人/74 回	4,071 人/101 回	4,711 人/131 回
育児サークル	485 人/17 回	374 人/14 回	691 人/21 回	613 人/25 回
< 育児相談者数/回数 >				
市立幼稚園園庭開放事業	289 人/26 回	60 人/12 回	62 人/10 回	86 人/15 回
子育てサロン	760 人/51 回	1,074 人/74 回	1,613 人/101 回	1,913 人/131 回
育児サークル	281 人/21 回	170 人/18 回	242 人/24 回	507 人/40 回

### 関係団体との取り組み

子育てに関わる各団体との連携としては、「人と本を紡ぐ会」「箕面子ども文庫連絡会」等関係団体と下記の共催事業を行っている。また、「大阪府助産師会池田支部」とは、年に1回の「あなたと助産師のふれあい広場」を共催し、平成18年度から、妊婦を対象とした「ママの楽ちん子育てクラス」を年20回実施した。さらに、「子ども家庭サポーター in みのお」の協力のもと、出生率が上昇している地区において子育て広場「このゆびとまれ」を開催している。(関係機関との連携については基盤整備の小目標3に記載)

#### <平成18年度関係団体との連携事業状況>

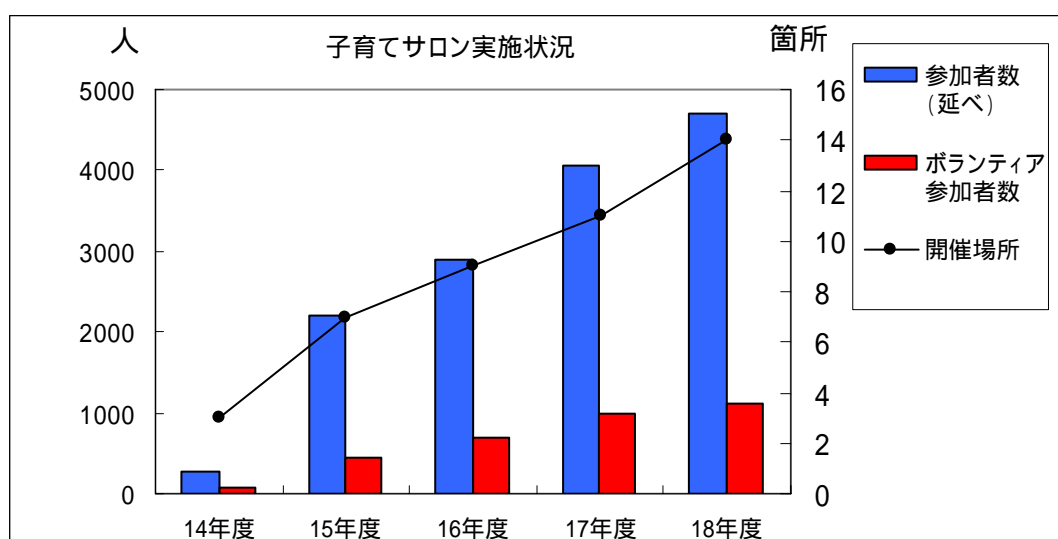
関係団体	事業名	対象者
大阪府助産師会池田支部	・ママの楽ちん子育てクラス	妊婦、父になる方、家族
「人と本を紡ぐ会」	・心をはぐくむ絵本と子育て講座	乳幼児期の親子
箕面子ども文庫連絡会	・「はじめてパパママになる日のために」 ・「2か月児の育児教室(わらびパーク)」 ・4か月児健診	妊婦 乳幼児期の親子
子ども家庭サポーター in みのお	・子育て広場「このゆびとまれ」	乳幼児期の親子
社会福祉協議会地区福祉会	・子育て講座	地域子育てサロンボランティアや保護者
みのお外国人医療サポートネット	・「保健・予防接種事業のご案内」の英語訳、中国語訳作成	箕面在住の外国人

### 子育てサロンへの取り組み

身近な地域での子育て支援の場として、地域の民生委員児童委員や社会福祉協議会地区福祉会等の協力のもと、すべての小学校区での子育てサロンの開催を旨としている。

開催校区については、平成14年度に3校区であったが、平成18年度には止々呂美地区以外の全小学校区(12校区)で開催できた。

今後も、子ども部子ども支援課、子育て支援センター等の関係機関との連携を図りながら子育てサロンを実施していく。



### 子育てサロンボランティア講習会の開催

平成16年度から、子育てサロンのボランティアを対象に社会福祉協議会地区福祉会との共催で講習会及び交流会を開催している。各地区の子育てサロンの実施状況の報告やテーマを決めてグループワークをする等、子育て支援や地域の見守りの充実にむけて情報交換や情報提供を行っている。年々開催地区が増加し、ボランティアの数も増え、地域での子育ての見守りが広がってきた。

#### < 子育てサロンボランティア講習内容 >

年度	講習内容
16	講演「最近の子育ての現状について」講師虐待予防協会事務局長桂浩子氏・交流会
17	講演「子どもの成長発達について」講師心理発達相談員山口令子氏・交流会(2回)
18	各サロンの報告会・交流会(2回)

### 子育て支援の連携推進会議

子どもの相談担当者会議、子ども読書活動推進委員会専門部会、子育て支援センター保育士と事業連携にむけた連絡会及び各種会議に保健師が参加することで、子育て支援に関する情報の共有化及び個別ケースの支援並びに事業の共同等について

て連携を図っている。

また、民生委員児童委員協議会や社会福祉協議会地区福祉会についても、地域子育てサロンの実施等虐待の予防や早期発見等についても、随時話し合いを行っている。

< 保健師が参加する関係機関との連携会議 >

会議名	主管課
早期療育実務者会議	子ども部子ども相談室
要保護児童対策協議会虐待部会	子ども部子ども支援課
子どもの相談担当者会議	子ども部子ども支援課
子ども読書活動推進委員会専門部会	生涯学習部中央図書館
保健・医療事務連絡会	人権文化部文化国際課
市立幼稚園養護教諭との連絡会	市立幼稚園
子育て支援センター連絡会	子ども部子育て支援センター
DV対応関係者会議	人権文化部男女協働参画課
教育委員会指導主事との連絡会	教育委員会

#### 市立小中学校の子育て体験学習への協力

平成15年度には、市立小学校が行う総合的な学習の時間にて、ゲストティーチャーとして保健師が「生命の誕生の大切さ」というテーマで、1・2年生を対象に講義を行なった。また、平成18年度には市立中学生の職場体験実習を健康増進課で受け入れた。

子育て体験学習については、子育て支援センターが、小・中学校・高校での福祉体験講座を開催し、市立保育所では中学生の福祉体験実習を受け入れる等、子育てに関する学習の場が年々増加してきている。



#### 北小での命の授業感想文より

「赤ちゃんが、おなかの中で、おっぱいをのむ練習をしているなんて知らなかったです。(2年)」「お父さんとお母さんからもらった命を大切にしていきます。(2年)」「あんなに小さかったのにこんなに大きくなってうれしいです。(2年)」

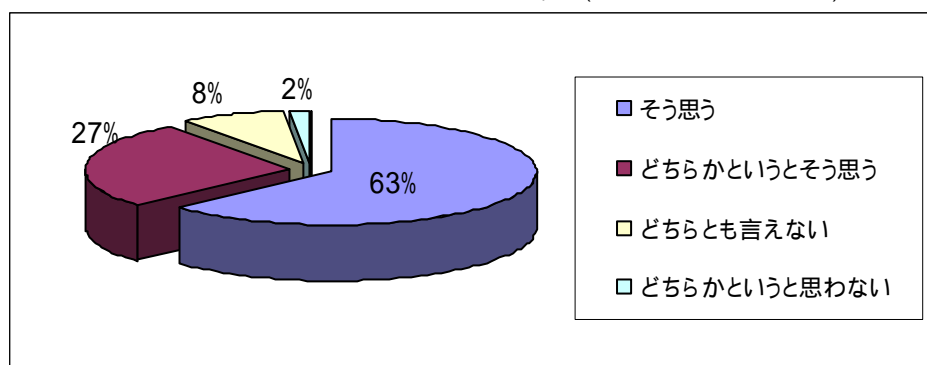
## 子育てサロン 9 地区参加者アンケート(平成17年7月実施)結果より

ア)子育てサロンに参加されるようになってから、日常生活の中で次のようなことはありますか。

<他の参加者との交流について(保護者 126 人対象) 重複有り>

選 択 項 目	率 (%)
友達ができた	54.8
育児の相談をし合うようになった	25.4
メール交換や電話などのやりとりをするようになった	30.2
一緒に遊びに行くようになった	13.5

イ)箕面市は子育てしやすいまちだと思いますか。(保護者 126 人対象)



\*平成18年度の市民満足度アンケート調査(879人)によると、同様のアンケートに対して「そう思う・どちらかというと思う」の回答割合が70.4%であった。子育てサロン参加者へのアンケート結果と比較して約20%低い。これは市民満足度アンケート調査の対象者が子育て期を終了した40歳以上が多いため、直接サービスを受けているか受けていないかによる意識の差と思われる。

ウ)子育てサロンに関わったことで、子育て中の世代に対する意識の変化はありましたか。

<ボランティア 65 人対象 重複あり>

選 択 項 目	率 (%)
最近の子育ての状況が理解できるようになった	50.8
地域の子どもや子育て中の人に関心が向くようになった	46.2
地域のいろんな世代の人に関心が向くようになった	43.1

援護を必要とする子どもや保護者への支援

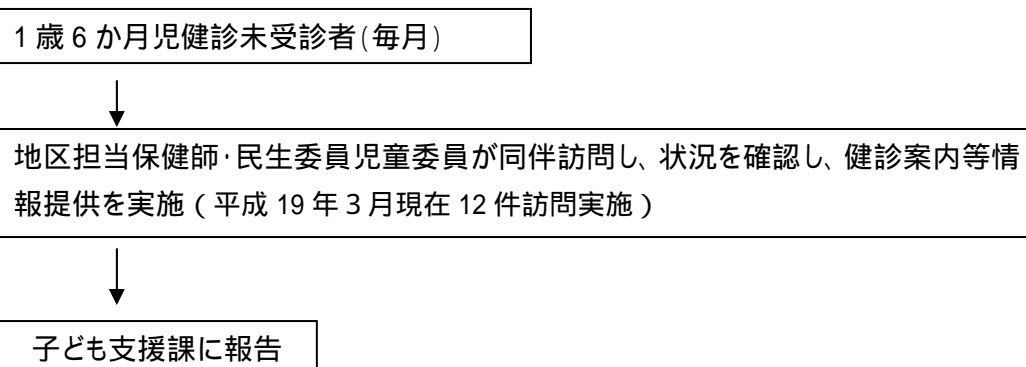
児童虐待に対しては、児童虐待防止法・児童福祉法の一部改正により、平成18年度に「要保護児童対策協議会」(子ども支援課)が設置された。虐待だけではなく、障害・非行問題も含め、多くの関係機関が集まり、それぞれの部会や個別事例検討会が随時実施されている。この中で、健康増進課への虐待の報告や相談件数は、年々増加傾向にあり、乳幼児健診での早期発見、保護者への予防的な関わりや支援も必要となってきている。

早期療育については、発達障害者支援法において乳幼児健診での早期発見が位置づけられ、そのシステムの一環として、早期発見や支援に関して子ども相談室との連携強化や平成18年度から保健師が市内の保育所、幼稚園等へ巡回し、職員や保護者に対して相談支援を行っている。

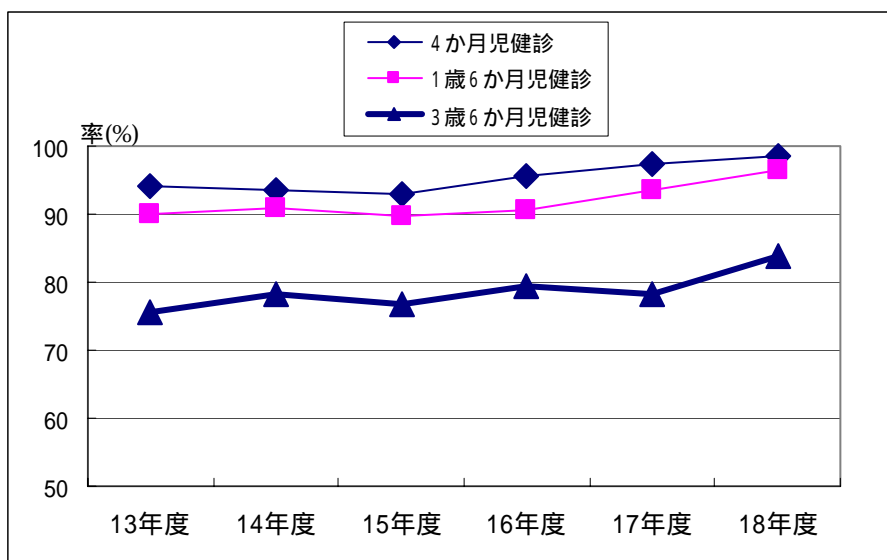
早期療育実務者会議では、保健師も委員として参加し、保護が必要な児童のケース検討及び支援の方向性・役割分担、適切な支援に向けて調整を行っている。

平成18年1月からは、府の「児童虐待発生予防システム構築事業」を子ども支援課と連携して開始し、1歳6か月児健診未受診者に対して民生委員児童委員との同伴訪問をしている。

#### 児童虐待発生予防システム構築事業流れ



乳幼児健診の受診率



( 3 ) 今後の方向性

地域でのボランティアの増加等の子育て支援の充実を図り、安心して子育てができる環境づくりを引き続き実施する。

虐待予防・発達支援に向けて、関係機関との有機的な連携の強化。

幼児・小中学生を対象に母子保健の観点から「命の大切さ」を伝えていく。

